

Hello

2006  
5  
No.250

# friends

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

(財) 神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ)1階 ☎045-896-2626



## 特集：多言語生活情報を届けるには

- 外国籍県民キーパーソンに聞く ①米山リディアさん ②伊佐里斯レンさん ● カンボジアのお正月
- 報告書ができました「多言語生活情報の提供・流通その2」
- あーすぶらざ2F情報フォーラムにつくります 多言語生活情報センター (Multilingual Resource Centre)

### かながわのキーパーソン：谷津倉智子さん

(NPO法人「さなぎ達」理事、(株)Funnybee代表)



# 多言語生活情報を届けるには

～外国籍県民キーパーソンに聞く①～



「多言語情報が外国籍住民の手に届いていない」。さまざまな場でそのような声が挙げられてきました。協会では、2004年度から2年間にわたって、より効果的な多言語情報の提供と流通の仕組みをつくるために、様々な方々の協力を得ながら調査を行ってきました。今回の特集では、2005年度におこなったインタビュー調査にご協力いただいた外国籍住民の方々の中からお二人を選びご紹介します。相談活動や情報伝達に力を注がれているキーパーソンの方々は、いま、何が求められていると感じているのでしょうか。

## 米山リディアさん(スペイン語通訳・相談員)



### ●情報の到達度、情報が届かない理由

在留資格がないために、子どもを保健所に連れていかれない母親もいます。たとえ多言語版で出っていても母子健康手帳をもつ意味さえなくなってしまいます。また、病気など、何かあると、帰国してしまうという人も多いですね。お知らせが日本語だけという自治体もあります。大切な情報が載っていても、読めない人は捨ててしまいます。『よこはまYokohama』<sup>(1)</sup>のような多言語生活情報紙があるとよいと思います。

### ●教会での相談、医師・専門家との連携、さまざまな問題

教会のなかで、平日に相談を受けています。相談希望者は多く、長野、山梨など、遠くからも来ます。医療の相談が多いですね。最近は、ストレスによるうつ病が、とても増えています。とくに父親がうつ病になると、家族への影響も大きいですし、家庭内暴力の原因にもなっています。そうしたこともあって、月1回、ミサのあと、メンタルヘルスの専門家が来て相談を受ける活動をおこなっています。母親に対しては、セミナーのようなことをしています。うつ病の場合は、専門の医師につなぎます。依頼すると、休診日にも診療してくれるので助かっています。私は通訳として患者に同行しています。

3ヶ月に1度、医師、カウンセラー、セラピスト、ボランティアが集まって、さまざまなケースについて話し合う場を設けています。ボランティアは専門知識を身につけていないので、苦労しており、専門家が育たないといけないと私は思います。保育園に行かず、ひとり家で過ごす子ども、不就学の子ども、学校に通っていても学童保育に行かず、帰宅の遅い親を待つ間、公園にひとりでいる子どもなどがいて、心配しています。

### ●利用している多言語情報、エスニック・メディア

『外国人のための保健医療ガイドブック』(県発行)は良いと思います。私も作成にかかわりました。でも、電話番号や相談の曜日変更の情報などが更新されていないのは困ります。県国際交流協会がホームページで公開している『多言語医療問診票』<sup>(2)</sup>も作成にかかわりました。問診票は、自分たちのように情報を伝える側の人間や医者には役立つかかもしれません、救急の患者本人には使いづらいと思います。相談活動などをおこなっている人は持っているとよいと思います。

### ●多言語情報のつくり方にについて

なによりも情報の更新が大切だと思います。印刷物では更新に限界がありますが、ホームページの情報はできるだけタイムリーに更新し

てほしいです。また、医療保険がない人に向けた情報提供を考える必要もあると思います。その人に「できること」と「できないこと」がはつきり伝わるようにすることが大切です。ラティーノの場合、英語の資料があっても読まないので、とにかくスペイン語・ポルトガル語で出すことが重要です。

### ●多言語情報の有効な流通方法

教会のキーパーソンに依頼して配るとよいと思います。教会には1,000人規模で人が集うものもあります。とくに在留資格がない人は、役所には行きませんが、教会には足をはこびますので。教会以外では、レストランに情報を置くのもよいのではないかでしょうか。

### ●専門通訳者・相談員の不足、人材の育成

医療通訳ができる人が足りません。とりわけストレスを抱える人の場合、通訳がよくないと、よけいなストレスがひどくなってしまいます。相談員として活動できる人がほかにいませんのでトレーニングしたいのですが、私個人がおこなうのはとても難しいです。活動している人は、みんなたいてい月曜から土曜までフルに働いています。現在、私は、自分が医療、生活、家庭、法律と、何でも相談を受けていますが、ほかに人材がいれば、ひとつの分野だけをやりたいと思っています。MIC<sup>(3)</sup>ができたおかげで、以前に比べると、病院に付き添いで行く回数が減りました。MICに登録している通訳者の中から、カウンセリングもできる人が出てくるとよいと思います。

もっと研修の機会がほしいと思います。以前は、県でケースの勉強会をしていたのですが…。15~16年くらい前に参加した東京弁護士会館での勉強会は、法律、保険、入管のことをたくさん学べて、知り合いも増えて、とても役に立ちました。そういう研修を受けた人たちが現在地域で活動している人材です。こうした専門スタッフを養成するための講座が必要だと思います。

相談員の人材を増やすには、給料を出すのがよいと思います。私のように無報酬で動ける人間は限られていますから。決められた曜日・時間に専門相談員として働くようにする仕組みづくりが求められていると思います。

### ●防災について

防災に関する情報はみんな知らないと思います。簡単な2ページ程度のマニュアルがあるとよいのではないかでしょうか。教会でも防災訓練がありますが、日本語のミサのときだけ行われているので、外国語のミサのときにはやっていませんね。防災情報は、学校で、子どもを通じて情報を得るのがいちばんよいと思いますが、不就学の子どももいることに留意すべきでしょう。(談)

\*1 「よこはまYokohama」:横浜市国際交流協会が発行している生活情報紙。毎月、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、インドネシア語、やさしい日本語の6言語で発行。

\*2 「多言語医療問診票」:ハーティ港南台が作成した問診票を、イリュージョン・ミル、デジタリウム・プロジェクトなどとの協働作業を通じて作成した10科目13言語のweb版問診票。

ホームページは、<http://www.k-i-a.or.jp/medical/index.html>

\*3 MIC:NPO法人「多言語社会リソースかながわ」の略称。神奈川県との協働事業として、県内の提携病院に医療通訳派遣をしている。

## 特集

## 多言語生活情報を届けるには

～外国籍県民キーパーソンに聞く②～

伊佐リストさん(カンボジア調整委員会)

## ●情報が届きにくい理由

情報については、仲間同士で教えるという形でいままでできていると思います。県の行政関係の情報は全然届いていないと思いますね。ましてや、それが自分に関係あるかどうかも気づいていないと思います。(協会が収集しているカンボジア語版の行政情報のサンプルを見ながら)見たことがあるものはほとんどないですね(笑)。これ(『相模原市急病診療制度の利用の仕方』)は、自分が携わったので知っています。あとは、自分たちのところには届いていないですね。市役所に多言語情報が置いてあっても、年一回くらいしか行かないですから…。市役所に行っても、自分に関係があると思わなければ、多言語情報は目に入らないです。ある程度、自分にとってもっと身近なところにあれば見てみようと思うかもしれません。

## ●情報の収集・提供

わからないことがあると、私は、難民定住援助協会に電話します。関連資料なども送ってもらいます。身近なところにありますし、遠慮なくいろいろなことを聞けますから。援助協会に足を運んだときには事務所内に貼ってあるニュースを見たりします。「難民のつどい」(難民事業本部)のときに手にいれることができます。

インターネットもよく見ます。カンボジアの国内の政治、生活、文化などのニュースなどを、カンボジアの新聞のホームページで見ます。

## ●有効な流通方法

カンボジア人が集まる大きなイベント会場で、主催者に依頼しておいて配布すると、少なくともそこにいる人の目にはふれやすいと思います。そして、資料だけ配るのではなくて、口頭で説明するのがとても大事なことだと思います。日本語教室なども活用すればいいと思いますね。誰かが直接でかけて行って、「10分いただけますか?」というふうに頼んで、情報の内容と、そこにいる人にその情報がどんな意味があるのかを伝えることがとても大切だと思います。

## ●拠点がほしい

日本の方々にとって、公民館など人々が集まる場所にこうした情

報が置かれていると思うのですけれども、カンボジア人は公民館の施設を利用する人はほとんどいないと思います。事前の申込みなど予約の手続きがもう少し簡単だといいのですが…(笑)。カンボジア人が集まれる決まった場所がないんですね。情報を伝えたくても、人が集まるところがまちまちなので難しいです。団地の「集会所」のような感覚で使える場所があればいいと思います。図書館のような形式でもいいので、一つの部屋で、大切だと思う資料を伝えることができるといいと思います。そういう場に電話番程度の入会費を保証してだれかがいつもいられるようにすれば、もっと情報を集めることもできるし、情報をいろいろな人に伝える力も増えると思います。

## ●コミュニティ向け情報紙

1年前から、『メッセンジャー』というニュースレターを年4回出しています。難民事業本部から補助金をもらっていて、紙代などに充てています。始まって一年あまり。今は、カンボジア人の各団体に配っているだけですが、多くの人に読んでもらいたいので、今後は、日本の交流団体などにも送ろうかと思っています。

編集は一人の人がやっていますが、仕事をもちながら時間につくるのは、ほんとうにたいへんです。結核検診、高校進学ガイダンスなど、生活上の大事な情報を載せてきました。もっと載せたい記事もあるのですが、資料を集めて編集するのにもすごく時間がかかります。できたら五人くらいのネットワークでやっていきたいと思っています。ただ、入力の技術があるかないかが問われますので、いまは過渡期です。ボランティアでやるとなると、時間の制限もありますから、やれる人はほんとうに少ないです。

## ●防災について

防災に関しての情報を知らない人は多いと思います。大きな災害が起きたら、多くの人がパニックになってしまうのではないかでしょうか。「自分は外国人」という意識がありますから、日本人の人たちと一緒にうまく逃げることができるだろうかという不安があると思います。たとえば避難所に行ってみて、日本人がたくさんいたら、「外国人でも入っているのか、いけないんじゃないかな」というふうに思ってしまうかもしれません。おそらく、カンボジア人の仲間が集まって逃げることになると思います。(談)

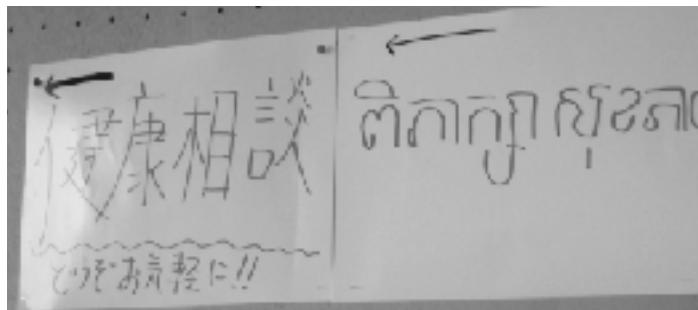
## カンボジアのお正月

4月16日、相模原のけやき会館で在日カンボジア調整委員会が企画する「カンボジアのお正月」が開催された。

例年カンボジアの正月近くの祝日に開催されるが、今回も神奈川のみならず東京や埼玉から多くの在住カンボジア人が参加した。会場のけやき会館ではカンボジアの伝統的舞踊、歌など華やかな催しが行われ、お昼近くになると部屋からあふれ出るほどの人が集まり、久しぶりに会った友人たちとの会話を楽しんでいる人が多くみられた。

会の受付では、在日カンボジア調整委員会が発行する生活情報紙「メッセンジャー」や、難民事業本部からのお知らせなど、

カンボジア語と日本語が併記された資料が手渡された。会のはじまりには資料をもとに代表者から説明があった。普段は離れて生活をしているエスニック・コミュニティの人たちが集まり、人を介して自然と情報がやり取りされるこうした「場」において、生活に不可欠な情報を届けることの重要性を改めて感じた。



報告書ができました

## 「多言語生活情報の提供・流通 その2」

県内には15万人を超える外国籍県民が暮らしていますが、自治体が発行する「多言語情報が、当事者の外国人に届いていない」との声が、「外国籍県民かなかがわ会議」の協議のなかで、度々あがっています。

協会では、このような状況をふまえ、2004年度から、行政機関、外国籍県民、NGO、国際交流団体、学識経験者を構成メンバーとする研究会を設置し、多言語生活情報を効果的に届けるための方策を検討するための調査研究をおこなってきました。

2005年度は、「情報の受け手」とされる外国籍県民を対象としたインタビュー調査をおこない、相談窓口などで具体的に情報提供に携わっているキーパーソンに多言語生活情報が届いていないということや、教会や学校など、市役所等の窓口以外の場に情報を積極的に届ける必要があること、などが明らかになりました。

報告書『多言語生活情報の提供・流通 その2』には、多言語生活情報の提供・流通、内容、通訳・翻訳、相談にかかる課題がテーマごとにまとめられています。また、エスニック・キーパーソンたちが医療や防災の分野をはじめ多言語情報の流通をめぐる課題について実感している苦労や不安が「生の声」として掲載されているほか、自治体の多言語広報に関する取り組みや、エスニックメディアに関する資料、有益なホームページや多言語生活情報の入手先など、情報源情報も多数紹介しています。また、多言語生活情報センターの果たす役割が提言という形でまとめられています。多言語生活情報の提供・流通に関する今後の活動のなんらかの参考にしていただければ幸いです。お申し込みは、下記の要領で。

●**価格:**800円(国際交流協会会員は500円)

(郵送を希望される場合は、送料込みで1,110円(会員は810円)を郵便局で振り込んでください。2冊以上希望される方は、下記までお問合せください。)

●**郵便振替口座:**00240-0-2675 財団法人 神奈川県国際交流協会

\*通信欄に「多言語生活情報 報告書 その2」とご記入ください

●**問合せ:**国際協力課 TEL:045-896-2964 \*祝日除く月曜休み



あーす ひろば2F情報フォーラムにつくります

## 多言語生活情報センター (Multilingual Resource Centre)

協会では、「多言語生活情報の流通」をテーマとする2年間の調査研究の結果を受けて、あーす ひろば2Fの情報フォーラムに、「多言語生活情報センター」(Multilingual Resource Centre、以下MRCと略します)を設置し、多言語生活情報の伝達にかかる課題の解決に向けて第一歩を踏み出します。

現在協会では、県内の自治体などが発行している約300点の多言語生活情報を収集・蓄積していますが、MRCでは、県内の自治体が発行している多言語資料の収集を一層進めるとともに、多言語資料の更新情報を電子メールで関係機関に配信するなど、より確実に多言語生活情報が外国人住民の手に届くための仕組みづくりをおこないます。

また、将来的には、自治体やNGO等と協力しながら、とくに有用と思われる多言語生活情報を電子情報化して、ホームページから情報を入手できるようにします。

現状では、多言語生活情報が、いつどこで作られたのかを把握することは困難です。MRCは、みなさんの身近で発行された多言語生活情報に関する情報を積極的に収集します。多言語生活資料の発行に関する情報提供をお待ちしています。

●**問合せ:**情報サービス課 TEL:045-896-2896 \*祝日除く月曜休み

## 2006年度の神奈川県国際交流協会の主な事業

当協会では、2006年度からあーす ひろばの指定管理者として、各国の文化紹介を行う「ワールドカルチャー・デイ」をはじめ、さまざまな地域へプログラムの出前を行なう「あーすキャラバン隊」など、多くの新規事業を展開します。

また、「あーすフェスタかなかがわ2006」の開催、災害時などにおける外国籍県民への多言語情報の効果的な伝達を目的に、携帯電話に多言語情報を配信するモデル事業の実施など、多文化共生を促進する事業も積極的に進めていきます。詳しくは下記をご覧ください。なお、その他の事業の内容については、今後発行される『Hello Friends』紙上でご案内します。

### その1 プラザの外に飛び出す、アウトリーチ型事業を開拓します

プラザで蓄積したワークショップや教材を活用したプログラムを県内のいろいろな地域や学校に出前(アウトリーチ)していく事業を始めます。

①あーすキャラバン隊…あーす ひろばに来館することが難しい小・中学校に出向いて、民族楽器を使ったワークショップ、国際理解を深めるゲームなどのプログラムを提供します。

②県内スタディツアーアクション…「多文化共生」の実現に向けて何ができるかを考えるために、外国籍

県民の生活の場や、外国籍県民支援に関わるNGOの活動現場を訪ねる県内スタディツアーを実施します。

### その2 多文化共生社会の実現に向けた調査研究事業をおこないます

協会では自治体で発行している多言語情報を外国籍住民が持つ携帯電話に配信し、流通効果を評価するモデル事業を実施します。

### その3 NGO、市民団体と連携してイベントを開催し、ネットワークをひろげていきます

①企画事業を公募します!…あーす ひろばを会場にイベント等を共催するNGOを公募します。共催が決定した事業には会場や、事業企画のノウハウを提供しながら、いっしょに事業をつくっていきます。

②「地球市民ひろば」の開催…開発・環境・人権などの地球規模の諸課題について、国連機関やNGO等の取り組みをとりあげ、世界の動きを広く紹介するフォーラムやセミナーを開催します。

# 日本語コーナー・多文化子ども支援コーナー

あーひ ぶらざ 2F情報フォーラムに、新しくオープンしました!

おひとり6冊3週間まで貸出できます!

(神奈川県内在住／在勤／在学の方に限ります・一部は閲覧のみ)

日本で言葉の壁にぶつかり、仕事や生活に問題を抱えている人たちが必要な日本語を学んだり、そうした子どもたちがより豊かな学校生活を送るために、役に立つ資料や教材を集めました。学習者と支援者(日本語教室や補習教室のスタッフ、学校の先生など)におすすめのコーナーです。

(1)成人対象の日本語教材、(2)子ども対象の日本語教材、(3)日本語教育に関する研究書・報告書、(4)学校生活を支援する実用的な資料、(5)学習をサポートする補助教材・JSLカリキュラム関連図書類、(6)外国人児童生徒教育、多文化教育などの研究書・報告書類。

以上の分野別に整理しています。

一般に流通していない手作りの資料も数多く取り揃えていますので、ぜひお手にとってご覧ください!また、ライブラリースタッフによるおすすめ情報もあります。

そして、今後はみなさまの「声」が新コーナーの貴重な資料となっていきます。



## ■ご利用いただける日時

火～金曜日 9:00～20:00

土・日・祝日 9:00～17:00

※祝日除く月曜休館

## ■資料に関する問合せ:情報フォーラム

TEL:045-896-2977

ペーパークラフト「世界の家」シリーズ 第3弾!

## 「インドネシア トロジャの家」

地球市民学習のための新しいクラフト教材『インドネシア トロジャの家』が完成しました。

インドネシア・スラウェシ島、トロジャ地方にある、舟のような形をしたユニークな家です。稻作文化や水牛を大切にした暮らし、日本の生活との違いを、クラフトを組み立てながら学ぶことができます。



※他にも『モンゴルのゲル』『チャークリンくんの家』(タイ・アユタヤ地方の民家)があります。

HP「ペーパークラフトde 世界の家」:<http://www.k-i-a.or.jp/papercraft/>

### ●価格 300円

あーひ ぶらざ 1階 神奈川県国際交流協会で販売しています。

郵送希望の場合は、代金と送料160円を郵便局でお振込みください。

郵便振替口座 00240-0-2675

財団法人 神奈川県国際交流協会

※「通信欄」に「インドネシアトロジャの家」と記入してください。

### ●問合せ:(財)神奈川県国際交流協会・国際協力課

TEL:045-896-2964 ※祝日除く月曜休み

かながわ市民活動情報メールマガジン「KIS NEWS」がリニューアル!

## かながわ地球市民メールマガジン

2006年4月より、あーひ ぶらざ の施設・イベント情報や県内NGO情報を掲載したメールマガを配信します。情報を作成・まとめ、機種により携帯電話でも受信可能になります。従来の発行委員会形式を改め、神奈川県国際交流協会(KIA)の編集・発行に変わります。

### ◎掲載する対象情報は?

あーひ ぶらざ の施設・イベント情報や県内NGOの

①「地球的規模の課題解決」を進める活動

②「多文化共生」の地域づくりを進める活動

③「国際交流・協力」を進める活動

☆★地域福祉など、上記テーマ以外のイベント等は対象となりません。

### ◎主な配信先は?

個人、ボランティア団体、NGO、教育機関、自治体など

### ◎情報の掲載依頼先は?

①情報提供フォームを利用する

<http://www.k-i-a.or.jp/kianews/form.html>

②メールを利用する magazine@k-i-a.or.jp

詳しくは、情報サービス課までお電話を!

TEL:045-896-2896



# かながわのキーパーソン

## 谷津倉 智子さん(NPO法人「さなぎ達」理事、(株)Funnybee代表)



簡易宿泊所「ドヤ」が密集する横浜・寿町。外国人労働者への賃金の不払い・不当な解雇、高齢者・障がい者に対する生活支援など「寿町」が抱えている問題は大きく、深い。

今回は寿町の衣・医・食・職・住などを支援するNPO法人「さなぎ達」の理事、そして寿町のドヤ街を再生するFunnybee(株)の代表として活動をつづける谷津倉智子さんにお話を伺った。

### ◎寿町に出会う

はじめて「寿町」の存在を知ったとき、「経済大国」と言われる日本に、この地域があるのはなぜか。それがショックでもあり疑問でもあったという。

「寿町」に何か関わっていきたいと思い、何度も足をはこんだ。炊き出しの手伝いやボランティアに参加するようになり、やがて

寿町の衣・医・食・職・住などを支援するNPO法人「さなぎ達」に参加することになった。

「さなぎ達」では「ソトブキ(寿町以外で暮らす人々)への情報発信」「支援物資の提供」「寿で暮らす人々が必要な生活情報の提供」を行う「さなぎの家」の運営や、食の部分をサポートする「さなぎの食堂」の運営を担うなど寿町の人々を常に支え続けている。

### ◎自立自援

「さなぎ達」では「自立支援」ではなく「自立自援」を目標としている。「支援する側」と「支援される側」と分けるのではなく、目線はお互い同じ。彼ら自身が「生きたい」と思えるような環境作りをしていきたいと思っている。

そして「さなぎ達」の活動の基盤を支え、「仕事」として成り立たせるために「Funnybee(株)」を立ち上げた。「ドヤからヤドへ」を合言葉に、寿町という「街」 자체をサポートする一つのプロジェクトとして「YOKOHAMA HOSTEL VILLAGE」がある。ドヤと呼ばれる簡易宿泊所を、国内や海外からの旅行者が滞在するゲストハウスとして提供している。高齢化した街に、若者を取り戻し、町のイメージを変えていくこと、町の住人に雇用を生みだすこと、生きがいを持って働く環境づくりが目的だ。

谷津倉さんは、長期的なスパンで「寿町」という街・そこに集う人々を見つめている。そしてもっと色々な背景を持った人に来て欲しいと願う。

他の地域では「生きづらい」と感じた人、「寿町」に魅力を感じてやってきた人、そうしたすべての人々が出会うことによってこの街がもっと元気に、そしてもっと楽に生きていくものにしていきたいと、願う。

谷津倉さん自身が日頃から信頼を寄せる「さなぎ達」の方から聞いたとても印象的だった言葉が、日本の「ホームレス」は「familyless(家族がない)」と「hopeless(希望がない)」だという。

「家族」という守るべきそして守られる存在をなくした人々。そして自分自身が生きがいと思えるものを失っている。

「日頃心がけていることと言えば、彼らと本当の家族にはなれなくても、『疑似家族』として信頼関係を築き、何かあたたかさを共に感じられたら」と思っている。

※NPO法人さなぎ達…横浜の寿町で、路上生活者、および、それに至る恐れのある人々を対象として、衣・医・食・職・住を柱に、「自立自援」を促し、メンタル面をサポートしています。

※Funnybee株式会社…Yokohama Hostel Villageを企画し、寿町のドヤ街をツーリスト街(旅行者のための安宿街)へと変貌させようとしています。

### 横浜留学センター

T P Hawaii College 公認校の実績  
月額5000円の英会話  
& 留学前無料英会話

### Y.R.C.英会話学院

NPO法人 語学交流  
国際交流支援協議会

中国語  
韓国語

### 広告を掲載しませんか？

『Hello Friends』では、各ページに広告を掲載するスペースを設けています。県内で国際協力・国際交流の活動を展開している市民活動グループをはじめ、図書館、公民館、パスポートセンター、県立高校、市町村国際担当部署、市町村教育委員会、市町村区役所、県庁、個人会員などに配布しています。発行部数は6,000部です。どうぞ、お気軽に問い合わせください。なお、公序良俗及び法律等に違反する場合、もしくは当協会が不適当と判断した場合には、掲載しかねる場合がありますので、ご了承ください。

**これまで社会福祉・安全への  
貢献20年20億円を達成しました。  
21年目の今年もがんばっていきます。**

**神奈川県遊技場協同組合  
神奈川福祉事業協会**

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町1-6-10 神奈川県遊技場協同組合会館

# Seminar & Event 2006

MAY  
JUNE

## エスニック料理と暮らしのセミナー

知りたい!会いたい!味わいたい!~タイへようこそ~

「食」や「文化」を通して様々な国や地域に出会う、子ども主体のセミナーです。タイ出身の講師と一緒に、タイの料理作りや遊び、文化を体験します。

■日 時：5月21日(日) 10:00～14:00(受付は9:40から)

■場 所：あーす ぶるご 1階 料理室・ワークショップルーム

■対 象：小中学生(親子での参加も可)。外国籍の方大歓迎。大人のみの参加も若干ですが受け付けます。)

■定 員：25名(事前申込制、先着順)

■参加費：ひとり800円(食材費)

■持ち物：エプロン、タオル、ふきん、三角きん(バンダナでもOK)  
※幼児保育あり(参加者の妹・弟のみ)

■問合せ・申込み

学習サービス課(担当:木下)

TEL : 045-896-2899 ※祝日除く月曜休み

FAX : 045-896-2299

E-mail: gakushu@k-i-a.or.jp

## 世界の文化セミナー「ペルシャ」体験セミナー

シルクロードの要衝の地ペルシャは、優れた文明が発達し、豊かな食文化も育まれました。また中国を経由して奈良時代の日本にもたらされた食材やことばもあり、歴史的にも深いつながりがあります。今回の食体験セミナーでは、壮大なペルシャの歴史、そして意外に身近なイランという国について、料理と音楽の紹介を通じて学びます。

■日 時：6月24日(土) 10:30～16:00

■場 所：あーす ぶるご 1階 料理室

■定 員：18名

■受講料：4,000円(15歳以下は2,000円)

\*協会会員は、3,500円となります。

■内 容：①ペルシャ料理の調理・試食・交流  
メニュー(予定)

ホロシテ・バデムジン(ナスの煮込み)、ククサブジ(野菜卵オムレツ)、コトレット(カバブ)

②ペルシャ民謡の紹介・トーク

■講 師：モクタリ・ダヴィッド氏(IRNAイラン国営通信社通信員)  
板谷 由紀子氏(声楽家)

■問合せ・申込み：国際協力課(担当:富本)

TEL : 045-896-2964

FAX : 045-896-2945 E-mail: minsai@k-i-a.or.jp

## ワールドカルチャー・ディ

毎月特定の地域を選んで、ぶらざのあちこちでその地域にまつわるイベントを同日開催します。その地域を理解していくために行なわれるイベントを組み合わせた複合イベント。5月は「タイ」です。国際理解展示室を使ったタイ人による展示紹介(おしゃべりワールド)をはじめ、タイのこどもたちの絵画展示、「食」や「遊び」を通してタイを感じるセミナー、映像を通したプログラムなど盛りだくさんです。

■日 時：5月21日(日)

①おしゃべりワールド14:30～16:00

②ピエンナーレ国際児童画展選外作品展示9:00～17:00

③あーすシアター11:00～11:50 13:30～14:20 15:00～15:30

④エスニック料理と暮らしのセミナー10:00～14:00 等を予定

■場 所：あーす ぶるご ①5Fこどもの国際理解展示室

②5F架け橋 ③5F映像ホール ④1F料理室

■対 象：①～③はどなたでも。④は小中学生(親子での参加もOK)

■定 員：①②は特になし③各回120名④25名(申し込み先着順)

■参加費：①～③は無料。④のみ食材費800円

■問合せ・申込み

学習サービス課(担当:菅沼)

TEL : 045-896-2899 ※祝日除く月曜休み

FAX : 045-896-2299 E-mail: gakushu@k-i-a.or.jp

## あーすフェスタかながわ2006

～みんなで育てる多文化共生 気楽に、大胆に、キックオフ!～

世界の料理、ステージ、バザール、フォーラムなどを通して、「多文化共生」について理解し合うイベントです。あーす ぶるごとリリスを会場に繰り広げられる2日間。異なる国籍、文化、歴史的背景をもつひとたちが、集い、出会い、語り合う、あーすフェスタに是非みなさんお越しください。なお、事務局では現在フェスタ当日の運営をお手伝いくださいボランティアを募集しています。詳しくは事務局へお問い合わせください。

■日 時：6月3日(土)・4日(日)

■場 所：あーす ぶるご 及びリリス(横浜市栄区民文化センター)

★ホームページで最新の情報をご確認ください。

<http://www.k-i-a.or.jp/earthfesta/>

■入場料：無料(一部有料)

■問合せ・申込み

あーすフェスタかながわ実行委員会事務局

神奈川県県民部国際課企画班(担当:若松)

(財)神奈川県国際交流協会(担当:菅沼)

TEL : (国際課:045-210-3748) ※土日休み

(国際交流協会:045-896-2899) ※月曜休み

E-mail: festa@k-i-a.or.jp

## イベントの舞台裏① [ワールドカルチャー・ディ]

一つ一つはそれほど大規模なイベントでなくとも、同じ地域や国を対象として同一日に行なうことで、結果として広がりをもち気づきと出会いのあるイベントにしていきたいです。

例えば、民族楽器にご興味をお持ちの方が、そのワークショップに参加し、たまたま別プログラムの「児童画展示」に気づいてのぞいていく。そんな広がりです。「民族楽器」というキーワードにご興味をもたれて参加した方も、結果的には絵を鑑賞して、「こどもの絵って面白い」と感じてもらえるきっかけになれば、と思います。

異なる文化や社会に対して、マスメディアなどを通して様々なイメージができると思っています。この「ワールドカルチャー・ディ」は、「インドネシア・ディ」というように毎回特定の国・地域を冠して実施しますが、さまざまに用意されたプログラムには、必ず「個人」が登場します。まずはその「個人(ゲストであったり、絵の作者であるこどもであったり….)」と出会い、そこからその国・地域へと関心を広げていくことができる企画をしていきたいと思います。

(担当:菅沼)



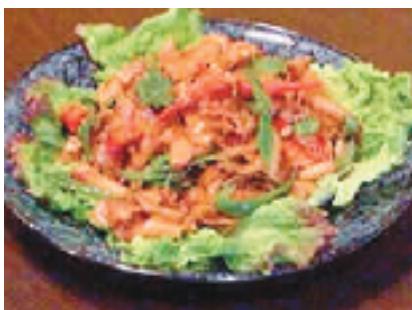
# 世界の食卓から①

毎回世界のさまざまなレシピを  
ご紹介します

## クイティアオ・パッキーマオ(海老入りタイ風焼きそば) タイ

### 【材 料】

セン・ヤイ(水でもどしたもの)	
鶏がらスープ	適宜
海老	10尾
ニンニク	大さじ1杯
ブリッキーヌー	10本
フクロタケ(ヤングコーンなどでも可)	1/3カップ
ミニトマト	1/3カップ
ナンマン・ホイ(オイスターソース)	大さじ4杯
シーイウ・ダム	大さじ1杯
ナンプラー	大さじ1~2杯
砂糖	少々



### 【作り方】

- 乾燥セン・ヤイを10程水に浸しておきます。また、バイ・カブラオを水洗いしておきます。
- ブリッキーヌーを叩いてつぶします。フクロタケやミニトマトは1/4に切れます。
- 鍋に油をひきセン・ヤイを加えます。鶏がらスープを加え強火で3分程度煮て、センヤイを柔らかくします。
- フライパンに油をひき、ニンニク、ブリッキーヌー、海老、柔らかくしたセン・ヤイを加えて炒めます。
- シーイウ・ダム、ナンマン・ホイ、砂糖をフライパンに加え混ぜ合わせます。(ナンマン・ホイ、シーイウ・ダム、シーイウ・カーオをほぼ同量で加えている場合もあります。)
- バイ・カブラオを加え、一混ぜしたらできあがりです。

### 会員の声

#### ひょうぐ もとこ 表具 基子さん

あーすぶらざが出来る頃は、PCなど遠い存在で、栄区発世界のどこかへ“地球市民”を感じることの出来る、情報発信基地ができるとワクワクしたものでした。

今年3月、栄区生涯学習の集いでご講演頂いたアルフォンス・デーケン先生から、栄区はボランティア活動が活発でとても良い、是非このパワーを他の地域へ発信すべきとおほめを頂きました。

栄区は人材豊富。私共のさかえ国際理解と交流の会(SIS)は、15グループから

なる“アクティブ栄”という自主学習のボランティアグループの一つ。女性のパワー、リタイヤされた方々のパワー、若さはまさにアクティブ。協働の必要性が問われている今こそ、区や市、県のハードルを低くすることで、いろいろな可能性が生まれます。

私自身、多くの会に参加している関係で、共有部分のコーディネートによる協働の素晴らしさを実感しています。

恒例の多文化共生のおまつり“あーすフェスタ”が地元住民・商店街を含む協働で定着することを願っています。

このほか、神奈川県国際研修センターと

●神奈川県国際交流協会(KIA)とは  
地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人のつながりを大切にした「国際交流」「国際協力」を推進する様々な事業を展開しています。

### ●会員になりませんか?

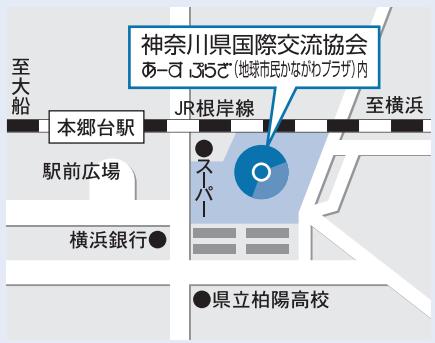
協会の活動を支える会員を募集しています。  
会員になると…

- 協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』をお送りします。
- 当協会の出版物の割引サービスが受けられます。
- 会員の方を対象にした催しへご招待します。
- 『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。
- 会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。
- あーすぶらざのレストラン「メルヘン」でお食事の場合、会員証の提示で、コーヒー、紅茶、グラスワイン、ソフトドリンクの一品サービスが受けられます。
- あーすぶらざ ショップ「ペルダ」で2,000円以上(税別)購入の場合、会員証の提示で10%割引が受けられます。

年会費 : 一般	3,000円から
学 生	1,500円から
団 体	10,000円から

\*会員登録をご希望の方は、協会までお問い合わせ下さい。振り込み用紙など関係資料をお送りします。

★当協会は、2006年4月より、神奈川県から指定管理者の指定を受け、あーすぶらざを運営することになりました。



このほか、神奈川県国際研修センターと  
神奈川国際学生会館を運営しています。

Hello Friends 2006年5月1日発行 第250号

発行・財団法人 神奈川県国際交流協会 TEL:045-896-2626 FAX:045-896-2945 URL:<http://www.k-i-a.or.jp> E-mail:minsai@k-i-a.or.jp 印刷／文明堂印刷株式会社



## 世界フェアトレード・ディ・イベント IN 飛騨高山 5月28日(日) フェアトレード1日学校

11:00~18:30 岐阜県・飛騨合掌苑

### 「手仕事がつなぐ飛騨高山とネパール、フェアトレードが創る世界」

<http://www.nbazaro.org/>

ワークショップ(染め、織り、かご編み、木工、紙漉き)  
基調講演、シンポジウム、ネパール生産者のお話 etc.

申込・問合: ネパリ・バザーロ TEL:045-891-9939 E-mail:common@nbazaro.org